

回覧



わがまち池上

池上管内世帯人口数
(外国人住人を含む)
(令和5年11月1日)

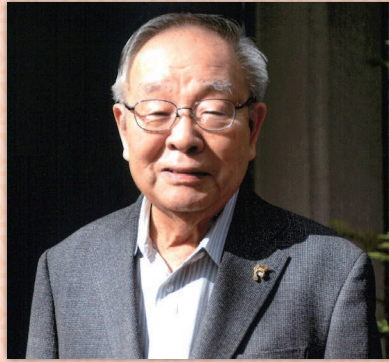
- ・世帯数 24,802
- ・人口(男) 22,293
- ・人口(女) 23,098
- ・人口(計) 45,391

発行：地域力推進池上地区委員会
編集：地域情報紙
「わがまち池上」編集委員会
事務局：大田区池上特別出張所
〒146-0082 大田区池上1-29-6
電話 (3752) 3441(代)



発行日3・6・9月の25日、12月15日

池上の昔を語る(32) 横溝成幸さんに聞く (中央四丁目在住)



私は昭和14年4月生れの84歳で、3歳上の姉がいました。蓬萊坂の道を東急バス車庫前に向かって進み、旧道と交差する四つ角の左側に我が家があり、祖父母も父母も農家でした。

子供の頃の東京大空襲で、太田神社の防空壕に逃げた時に、空が真っ赤に燃えていたのが一番記憶に残っています。空襲で我が家が焼けたので、久が原や母の実家の東玉川の親戚に厄介になっていました。父は焼け跡の後片付けをしながらバラックを建てて住み、私は翌春の小学校入学前に戻ってきました。

コ・竹馬・凧あげ等で遊びました。正月になると、運動靴を買ってもらったのがうれしくて、近くを歩き回りました。近所の瀧井染物屋まで遊びに行き、親父さんによく怒られたのが思い出されます。また軍用車や米車トラックが池上通りを頻りに行き来していました。よく覚えてるのは、叔父に皇居に連れて行ってもらった時に、警備している赤ら顔の大きな米軍のMPや、白衣を着た傷痍軍人がいたことです。



冬の野菜畑(風よけの笹)

家は江戸時代からの農家で、近所の畑や日吉に土地を借りて、野菜や果物を作っていました。私も父と一緒にリヤカーを引いて、日吉まで2時間位かけて歩いて行ったり、母と一緒に電車で行って、トマト・枝豆・じゃがいも・小松菜・玉ねぎ・白菜・ネギ等



祖父



井戸洗い場

を取ったり、洗い場で洗ったりして手伝いました。我が家の地域には、長勝寺を中心に子母澤講や中郷講・山谷講の三つの講がありまして。月一回持ち回りで講中のおかみさん達が昼頃から白い割烹着を着て、のり巻き・稲荷ずし・野菜の煮しめ等を作り「南無妙法蓮華経」のお題目を繰り返して唱え、終わると夜更けまで宴会で、当番の家のお嫁さんは接待に大変なようでした。戦後で楽しみのない時期、近所の人たちのコミュニティシヨンの場になっていました。

黒鶴稻荷神社 新築落成

かつて桐ヶ谷村と呼ばれていた桐里梅田町の鎮守・黒鶴稻荷神社は、幕府鷹匠の領主山本氏が三代將軍徳川家光の頃、境内で珍しい黒鶴を捕え將軍家に献上したところ、吉兆であると大いに賞せられて「黒鶴稻荷」と呼ばれるようになりました。境内は東閑森と言われる程、桜や松や椎の古木が多く、緑豊かな森で古い社殿と静かな雰囲気のある趣きがあり、映画の撮影にも利用されました。神社南側斜面には本門寺・桐ヶ谷横穴古墳が6〜8世紀にかけてありました。

しかし崖地高台にあるため、土砂災害特別警戒区域の急傾斜地崩壊場所指定され改善を求められていました。防災対策の造成工事には多額の費用が掛かるため苦慮していましたが、建設会社から老人ホームと神社リニューアルの提案があり、神社・町会・氏子会の合意のもと、新しい土地利用となり、緑地帯で使用されていなかった崖地を整地すると750坪になり、老人ホームに600坪貸出し、新しい神社・社務所と広場が150坪の土地とする案です。

二〇二二年五月に最後の祭祀をして、明治7年建立した社殿や大鳥居も、7月から解体工事、8月造成工事が始まり、11月に武蔵野台地の地層を見られる貴重な機会と東京都立大学鈴木毅彦教授(フラタモリでお馴染み)の説明で地層見学会があり、白い地層は6万年前の箱根火山で発生した箱根東京テフラ(東京軽石)と分かり見ものでした。

二〇二二年8月に老人ホーム新築工事が始まり、9月に黒鶴



新黒鶴稻荷神社



旧黒鶴稻荷神社

本阿弥光悦の扁額

去る六月に放送されましたNHK番組「歴史探偵」の中で本阿弥光悦を紹介。

光悦と云えば池上本門寺の比経難持坂下総門に掲げられた「本門寺」と書かれた扁額が、本阿弥光悦の筆によるものであることは池上在住の多くの人が知っていますが、失礼ながら書道に疎い編者が愛犬の散歩の都度眺めていても凡人の作としか思えずにいたところ、番組内で京都の本阿弥家の菩提寺である日蓮宗本山本法寺の堂宇にも光悦の筆とされる「本法寺」と書かれた扁額が掲げられており、MCを務め

る俳優の佐藤次郎氏や多摩大 学客員教授で歴史研究家の河合敦氏の解説によると、光悦は江戸時代初期の書の達人「寛永の三筆」の一人とのこと、となれば当然ながら編者の見立て違いと猛省いたしております。

光悦はまた俵屋宗達と共に造詣芸術上の流派である「琳派」を創設しました。

光悦は書以外でも蒔絵・螺鈿・陶芸と多種多様な才能の持ち主で多くの作品を残しており、それぞれ重要文化財や国宝級の逸品です。

また本阿弥家は室町時代から代々続く刀の研ぎ師であり刀剣の鑑定士の家系でもありました。

光悦の従兄にあたる光徳の家系には豊臣秀吉から拝領さ

れた名刀「備州長船住長重」は現在も続く本阿弥光徳家に伝えられております。

光悦の作品の中で「舟橋時絵硯箱」や「白楽茶碗銘不二山」は国宝に指定されていて、特に不二山は光悦の娘が嫁ぐ際に、名峰富士山のように掛け替えのない娘であることの思いを託し持たせたこととされています。

光悦は晩年徳川家康の命により京都洛中から洛外の追い剥ぎや辻斬りが出るような物騒な山間の「鷹峯」に移されたが、光悦を慕う職人達も移り住むようになり、簡素な土地に芸術村が出来ました。

ここで数々の名作が作られたことから近代になって日本のレオナルド・ダ・ビンチと呼ばれるようになりました。



池上の四季

1年D組 岡田 慧奈

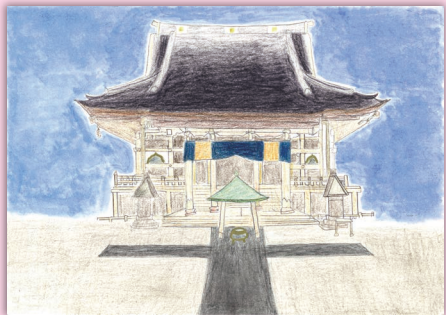
蓮沼中 作品

池上には、季節があります。桜が咲くこと、木の幹に蝉がいること、木の葉が色づき落ちていくこと。本門寺の桜の木で四季が移ろいでいきます。

池上には、友人がいます。久しぶりに開催された御会式。去年と比べてお店の数も多かったのですが、何があるのかを見て回るだけでも楽しかったです。なにより友人と約束もせず、ぱったり出会うときの嬉しさ！コロナ禍ですっきりと感じていた、池上にいるのここが池

上でないような感覚はもうありません。たくさんの友人たちと、私はこの町に住んでいます。池上には、心の自由があります。私はよく呑川の辺りを自転車で通ります。呑川の近くは空がよく見えるので、夕焼けが綺麗だとか、鳥が飛んでいるだとか、明日の国語の授業が楽しみだとか、今の自分の心をつれづれと思いながら自転車を漕いでいます。

色々な声や思いが飛び交う毎日では、自分の心を見つめる時間があります。なので私はただひとり、池上という町と共に進んでいくこの時間が好きです。



1年B組 原 そよ香 ・ 1年D組 堤 実佳子 合作



2年B組 中野 結衣

晩年光悦は隠居所である「大虚庵」で二十年余り過ごしたのち、京都洛内が一望出来るこの鷹峯にて、寛永十四年（一六三七）当時としては長命の八十歳で亡くなりました。

墓は鷹峯にその名前を冠した「光悦寺」にあり、この山間の高殿で時節の移り変わりを見つめ眠っています。

来年一月十六日（火）から三月十日（日）まで上野の東京国立博物館で特別展「本阿弥光悦の宇宙」が開催され、国宝「舟橋時絵硯箱」など、貴重な品々が展示されます。

来年一月十六日（火）から三月十日（日）まで上野の東京国立博物館で特別展「本阿弥光悦の宇宙」が開催され、国宝「舟橋時絵硯箱」など、貴重な品々が展示されます。



本門寺扁額



本法寺扁額

青少対だより

池上スポーツまつり

池上スポーツまつりは、昨年とても好評だった、ポッチャ交流会を10月15日（日）に池上文化センターの体育館で開催しました。

大雨の開催となりましたが各町会、小学校、池上ジュニアリーダークラブのチームがエントリして、熱い戦いを繰り広げました。

開催後、皆さんからは「是非来年も」という言葉が、たくさん聞かれ、楽しい交流会となりました。



池上ふれあいコンサート

池上ふれあいコンサートは、11月3日（金・祝）に池上会館集会所で行われました。

コロナのため4年振りの開催だったので運営面でもいくつか心配なところもありましたが、10団体（福祉園・保育園・小学校・地域）の出演があり、聞きに来てくださったお客さんは、終始盛況でうれしい悲鳴でした。最後には会場の全員で「サザエさん」を歌い、盛り上がりました。



俳壇

中央八丁目 吉田 小桂

五月晴れ 路地裏の子 声高し

行くあても 来る人もなし 春日和

渋滞を 抜けて故郷の 盆休み

絵模様が 出て食べ終る 心太

目を閉じて 音確かめる 秋の風

朝摘みし 葡萄並べて 味くらへ

励ましつ はげまされつつ 年新た

車窓より 真白き富士や 冬つつら



編集後記

また今年も同じ事を眩きながら師走を迎えました。でも今年はコロナ禍も落ち着いて例年通りのお会式やイベントも開かれるようになり、この誌上でも楽しい話題が届けられました。

来年もより良い年へと祈るばかりです。一年間御愛読有難うございました。

